

歴史の足跡をたずねて… 元寇防塁跡

すごいね。こんな身近なところに
ドラマがあった。



西南学院大学の第1号館1階に石築地(いしついで・元寇防塁跡)の一部が保存されているのをご存じでしょうか。この防塁跡は時の鎌倉幕府の執権、北条時宗が再度の元軍来襲に備え、九州諸国の御家人に命じて築かせたもの。西区は今津浜から東区の香椎までの博多湾海岸線に全長20キロにわたって5ヶ月の間に石を積み上げたということです。日本侵攻を目的に元軍は忻都(きんと)を総指令官として、文永11年(1274年)、九百余隻の軍船で博多湾に現われました。日本軍は、はじめてテツハウ(鉄砲)の破裂する音に驚き、集団戦法に振り回され苦戦しました。しかし、元軍は台風が起こり軍船の多くが沈没、日本征服を断念して逃げ帰りました。ついで弘安4年(1281年)元



軍は再び来襲しましたが、堅固な防塁と武士の闘いにはばまりました。帰国途中、再び台風のために元の船は沈没し、多くの犠牲者を出しました。

